

# 教育文化部会 会議録

【出席者】 委員：13名  
 アドバイザー：1名  
 ファシリテーター：1名  
 事務局：4名（戦略部会員：3名、政策推進課：1名）

## 【会議の内容】

### 1. はじめに

各自の自己紹介を行いました。

資料1に基づき、第1回まちづくり市民会議（全体会）の結果概要とふり返しシートの質問について事務局から説明しました。

### 2. 田原市総合計画フロー（案）について

### 3. 総合計画改定の視点について

資料2、3に基づき、総合計画改定のフローと本日の議題について、総合計画改定にあたって重視したい視点について事務局から説明しました。

### 4. 総合計画人口関連指標について

資料4に基づき、全国的な人口の動向、田原市の人口の動向、現時点での田原市の推計人口について事務局から説明し、意見交換を行いました。（意見交換の内容は次ページ以降に掲載。）

### 5. 戦略プロジェクトについて

資料5に基づき、戦略プロジェクトの概要について事務局が説明し、その後当日配布した資料に基づき、戦略プロジェクト案について戦略部会リーダーから説明しました。その後、戦略プロジェクトの市民提案、その他の意見交換を行いました。（意見交換の内容は次ページ以降に掲載。）

### 6. 市民評価について

資料6に基づき、第3回まちづくり市民会議で実施する市民評価について事務局から説明し、評価対象となる「図書館運営事業」について説明を行い、論点の整理を行いました。市民評価に向けて、視察の実施、市民会議の日程、委員の役割分担について決定しました。

〔視察日程〕 平成24年2月15日か16日（後日決定）視察先：田原市中央図書館

〔第3回市民会議日程〕 平成24年2月27日（月） 19:00～

〔市民評価役割分担〕

コーディネーター	加島アドバイザー	補助員	戦略部会リーダー（土井主査）
評価者	鈴木（海）委員、彦坂委員、廣中委員、土井委員、横田委員、鈴木（敏）委員、宮内委員		
判定者	神籐委員、鈴木（博）委員、小澤委員、山田委員、片山委員、金子委員、高木委員		

### 7. 役員の互選について

委員の互選により、教育文化部会の幹事に横田委員、副幹事に小澤委員が決定しました。

### 8. アドバイザー総括（加島アドバイザー）

非常によい意見が出たと思う。今後、お互いの顔や、こういう意見を言う人だということがわかっていくうちに、さらに深い意見を言い合うことができるようになると思う。

### 9. その他

各自ふり返しシートを記入し、解散しました。

項目	現状・課題
総合計画人口関連指標	<p>(委員) 人口が減っていくのは直感的にわかるが、確実に人口がこうなるかはわからない。人口減少によって衰退していくのが嫌でその対策を打っても、万一その対策が失敗した際のツケは市民が払う。日本全体の人口が減っていくのだから、田原市としても人口減少していく中で、いかにうまくやっていくかという視点があってもいいと思う。</p> <p>(委員) お金を使って、優遇して人を呼ぶ取り組みが多い。しかし、そもそも若者が結婚しないという背景があるので、若者がもっと積極的に交流できる機会をつくるべきである。個人情報の問題に変にこだわらず、交流機会や婚活事業なども促進していくべきである。女性が社会に出て自立する社会になり男性は委縮していく。高齢者に任せず、若者が自主的にどんどん取り組んでいくことが大切である。</p> <p>(委員) 以前 “今後パートナーと結ばれて子どもを育て、家庭を築けるのは4人に1人だろう” という言葉を聞き、とても印象的であった。少子高齢化など激動の世の中で、どこまで政策がそのスピードに近づけるだろうか。個々人の危機意識が大切だと思う。</p> <p>(委員) 人口が減少していくのは世界的な兆候であるので、東三河全体で考えていくべき問題ではないか。人口が減少・横ばいとなるのは仕方ないが、生産人口などを確保するためにも、何としても人口を増やしていきたい。人口を増やすためには、“田原市に住むとこんないいことがあるよ” という魅力を伝えることが大切だと思う。</p> <p>(委員) このままいったら、当然自然減少となる。少子化対策が必要といている割には、安心して子どもを産める環境、育てながら働ける環境が整っていない。次世代を担う子どもを増やすために、子育て支援などの施策に取り込んでほしい。</p>
戦略プロジェクト	<p>(委員) 既存の施策もある中で新しい事業を始めるのに違和感がある。既存事業の予算が削られているので、新たなものを始めるのではなく既存のものの手直しをやっていった方がよいのではないか。</p> <p>[事務局] 戦略プロジェクトとは、市が目指す市民協働のあり方を具体的に示すためのモデル事業として位置付けている。市民、地域、行政がそれぞれの役割を共通認識し、他の事業の模範として推進することで、今後の事業全般への波及を期待している。</p>
市民評価	<p>(委員) ここで質問しても明確な回答が返ってこないのなら、説明だけいただいて質問を考えてくる形の方がよいのではないか。</p> <p>[事務局] 以前にも試行的に実施したが、事業の質問に時間を要し、十分な評価にまでは至らなかった。今回はまず論点を整理し、当日はそこについて話し合う時間にしたい。質問は、資料送付時から受け付けをしている。1月31日までにいただければ、次回の資料配布とあわせて事前にお送りしたい。</p> <p>(委員) 資料を読んで、図書館の貸出冊数の多さは質の良さと直結するかということと、課題の部分で地域ごとの格差・年代による格差があることをあげているのに、実際の貸出に居住地域でばらつきがあり、課題が解消されていないことが気になった。また、地域や年代による格差を埋める手段に何か案はあるのだろうか。</p> <p>(委員) 利用目標の設定が下がっているが、なぜか。</p> <p>(委員) 目標数値の設定にあたっての根拠は何か。</p>